

令和5年度 山形県立山形東高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

- 学校の教育目標 1 創造力に富み、心豊かでたくましい人間の育成 2 自主的・自律的に行動できる、個性豊かな人間の育成 3 広い視野を持ち、国際社会に貢献できる人間の育成
 ○ 本年度の評価 【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

| | 重点目標 | 具体的目標・評価指標 | 自己評価 | 今年度の成果と課題 | 次年度への改善点 | 学校関係者評価 | 学校関係者の意見・要望 |
|-----------|--|--|------|--|---|---------|--|
| 学習指導 | 【探究型学習の推進による学力の向上】 1 自立した学習者を育成するため、自ら課題を発見し解決を図る探究型学習を学校教育全体で推進する。 2 全ての生徒の基礎学力充実のために、授業中心主義を徹底する。 3 生徒の授業評価による授業改善や研究授業を通じた授業力の向上を図る。 4 授業及び家庭学習においてICTの効果的な活用を推進する。 【読書習慣の形成と感性教育の推進】 5 読書を心の糧とすべく、生徒が利用しやすい読書・学習の環境を整備する。 6 芸術鑑賞の機会を多く設け、豊かな感性を養う。 7 探究型学習にも対応する図書館環境を整備し、その活用を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 探究型学習やICTの効果的活用等を取り入れた授業の互観を年3回(内、他教科を1回)以上行い、授業改善をすすめる。 毎日の家庭学習時間を、年次+2時間以上を目標に取り組ませる。 生徒の探究活動の成果として、校外発表を年間のべ100件以上行う。 読書を推奨し、年間一人平均15冊以上の読書量をめざす。 校内読書感想文コンクール等への積極的な応募を促し、提出率100%をめざす。 教科学習及び読書のための図書館及び図書資料の利用を積極的に推進する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 生徒からの授業評価アンケートや研究授業の告知方法を変更するなど運用面の改善を試みた。良い面もあったがさらなる改善をすすめたい。 探究活動の成果を校外発表でのべ220件発表され大幅に目標を上回った。 1・2年次共に目標達成者が少しずつではあるが増加しており、自学自習の定着が図られている。 紙媒体から配信型に移行し、積極的に情報を発信するとともに、図書館の適切な利用を推進した。 図書委員会は、山東祭での古本市など意欲的に取り組めた。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業改善の方向性を整理・共有し、教員間の情報交換を密にする手立てを打って行きたい。 ほとんどの生徒が何らかの形で外部発表を行うことができた。今後は質を向上したい。 部活動などを含めた生活リズムが大切である。適切な課題の内容・量を教科・年次と連携しながら設定していく。 クイズ大会の時期と内容を見直し、次年度は新入生をメインに参加者を募って行う予定。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒達は、限られた時間の中で、教科学習、探求活動、部活動と頑張っていると思う。 家庭学習時間が3年生は5時間になっているが、普通に学校に通っていて毎日5時間行うのは、実際は難しいであろう。 探究活動に関しては、積極的に推進されている様子が伺える。今後も地域の自治体、大学、企業などと連携した活動をお願いしたい。 複数クラスの授業参観から、生徒同士での学びを重視しているように思えた。今後も教員間での情報共有をしながら、自立した学習者を育てていただきたい。 普段の授業内容を見られるように、データ化、配信して復習等が出来るような仕組みがあると良いと思った。 |
| 進路指導 | 【キャリア教育の推進と進路指導の充実】 1 生徒が自己の在り方生き方を考え、進路選択・決定とその実現に向けた努力ができるように、「学びのストーリー」に基づきキャリア教育を推進する。 2 3年間を見通した進路指導を行うため、各年次で必要な指導について共通理解を持って進める。 3 大学入学改革に対応し、高い進路志望を実現するための指導方法について研究を深める。 4 地域の魅力や課題を良く知り、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 難関大および医学部医学科の合格者60名以上をめざす。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 校内に「学びのストーリー」の大判掲示を行い、生徒や教員の意識を高めたが、より具体的な指標を設定、共有して指導にあたる必要がある。 東北大オープンキャンパス参加や東大キャンパスツアー等を企画・実施し、高い志望層の厚さを維持している。 3年次と協力しての学校推薦型・総合型選抜への全職員での指導を行うことができていますが、より早期の学力完成は引き続きの課題である。 郷土研修を含め、1年次前半での職業観涵養を中心としたキャリア教育事業を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き3年間の指導の流れ(学びのストーリー)の理解を深めてもらう機会を増やすとともに、各年次の進路検討会で情報の共有や課題についてさらに具体的に検討し解決の手立てを講じる。 来年度からの新課程に対応した確実な調査書発行を行うために、各分掌・年次と連携しながら、新年度当初から計画的な作成・点検システムを確立する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識を高める企画は大切だと思う。 山形県内トップの高校として、難関大学、医学部などの進学率は一定数を確保していく必要はあることは理解できる。あわせて海外、芸術系などを含め多様な進路があることを示し、生徒を導いてもらいたい。 東北大への東北出身者の進学者数が減り続け、逆に関東出身者が増えているという。山形東高は自校だけでなく県内、東北の進学校を引っ張っていくような活動を目指してほしい。 「学びのストーリー」をより具体的に、シーズン毎に「やるべきこと、何が必要か」を明示してあげることで、学習意欲を保つことに繋がるのではないかと思う。また、先生方の都度の声かけが重要になると思う。 |
| 生徒指導 | 【いのちの教育と生徒指導の充実】 1 かけがえない自分の「いのち」と他者の「いのち」を尊重する姿勢を育む。 2 教員による生徒観察と家庭との連携を深め、健全で充実した学校生活の基盤を形成する。 3 生徒会活動と部活動を充実させ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「いのち」にかかわる重大交通事故がゼロとなるよう、事故の未然防止に努める。 毎月の出席率平均が99.0%以上をめざす。 部活動等で団体5種目以上、個人種目10人以上の全国大会出場をめざす。 社会参加・ボランティアに関連する各種情報を特定掲示板等で定期的に紹介し、参加しやすい環境を整える。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 各種特別活動や行事等において、感染症や熱中症等に注意を払いながら、工夫を凝らして主体的に活動にとり組むことができた。 新型コロナウイルスの流行以前よりも、学校を休むことへの抵抗感がなくなっているように思われる。 | <ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な学校生活の実現に向け、SNSの利用や交通安全への注意喚起を徹底していく。 目標に向かって努力しながらも心身ともに無理のない学校生活が送れるよう、保健課などと連携していく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> この難しい時代に現場の教職員はよく頑張っていると思う。 不登校の生徒がコロナ禍以前より増えているとのことだったが、戻りやすい環境作りを行ってほしい。 学校を休むことへの抵抗感がなくなっているという傾向は新型コロナのためだけなのか、他人との関係構築が希薄化している社会状況も影響しているのか。長期的に見極めるべき課題として取り組んでほしい。 さくら連絡網のさらなる活用。交通安全や健康面、防災等も加えたい。情報発信できれば、一層の意識向上が図られると思う。 |
| 健康安全・環境整備 | 【健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり】 1 生徒及び教職員の心身の健康の維持・増進を図る。 2 危機管理体制をハード・ソフト両面から整備し、災害・事故の防止に努める。 3 学習環境の整備・保全とその美化に努める。 4 感染症一般の予防対策を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会の「保健だより」年間8回、保健課発行の保健室だよりを年間8回発行して、心身の健康の保持増進を図る。 年18回のカウンセラー相談日を設定し、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。 清掃徹底日(毎週水曜日)と月例大掃除の取組みにより、校舎内外の環境美化に努める。 防災・災害対応訓練を年4回行い、危機管理意識の高揚と生活・校舎の安全を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 保健だより等は生徒保健委員の意欲的な取り組みにより予定回数を超過して発行することができた。感染症予防対策等についての呼びかけを重点的に行った。 防災・災害対応訓練を年4回実施することができた。定期的(毎月1回)に校舎の安全点検を実施することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 心身の健康の自己管理を図るため、さくら連絡網の健康チェックの入力の呼びかけや、カウンセラー相談日の活用など、保健だよりを通じて呼びかけていく。 校舎の老朽化に伴い、危険箇所や修繕箇所が発生する可能性が高まっている。安全点検等を通して情報収集に努める必要がある。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 質の高い教育を行っているだけに、ついていけない生徒への目配りが重要だと思う。 校内を見学させていただき、施設の老朽化は大きな課題であると感じた。公立高校として県の予算に頼らざるを得ない点は理解できるが、AIにより教育の中身が大きく変化する中で、ハード部分での差異化の重要性も高まってくるので、心配である。 環境美化に関して、掃除用具の点検をしていただくと良いのではと思う。 |
| 家庭地域の連携 | 【地域連携の促進と郷土愛の醸成】 1 地域の魅力や課題をよく知り、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。 2 探究活動や社会参加活動において、積極的に地域との連携を促進する。 | <ul style="list-style-type: none"> PTA総会・研修会(公開授業を実施)の出席率70%以上をめざす。 PTA会報を定期的に発行するとともに、保護者・学校評議員等の意見を聴き、経営改善に努める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> PTA総会の出席率：1年次76.1%、2年次78.5%、3年次87.1%、全体80.6%であった。 年次PTA研修会の出席率：1年次81.3%、2年次73.8%、3年次69.8%、全体75%であった。 PTA会報の発行、学校評議員との懇談会は、予定通りに行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 各種アンケートや行事等を通して、保護者・地域の意見をすい上げ、学校・家庭・地域との連携強化に努める。 地域で活躍する卒業生や県内企業・研究機関とのネットワークの整備をすすめ、より充実した企画を通して、郷土愛のさらなる涵養に努める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 会報などの各種広報紙は、読み手の立場に立ったより見やすい編集も心がけてほしい。 保護者が行事を通して、学校へ行く機会を設けていただいき、とてもありがたいと思う。 |
| 学校運営 | | <ul style="list-style-type: none"> ゆとり創造運動を推進し、行事や講習等に伴う代休措置の取得率100%をめざす。 「エコ・環境保護」を合言葉に水道、光熱費及び消耗品費等の節約に努める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 土曜講習等の勤務振替措置の取得率は各年次とも100%であった。 光熱水費等は前年度を下回る見込みである。 | <ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化等を通し、働き方改革を一層推進する 法令等で定める環境基準を順守し、冷暖房設備の適正稼働に努める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 負担軽減を目的とするものとして、専任担当者を採用する取り組み。より専門性を高めた指導が出来る体制の構築を考える。 |